

あかしや（朱四舎）教育

学校教育目標

自ら学ぶ朱四舎の子

～豊かな心を育み、生きる力を育てる～

<設定の理由>

ここ数年のAI等の先端技術の発展は目覚ましく、子どもたちを取り巻く環境もすさまじい勢いで変化を続けています。日本政府が掲げる sosaiety5.0 と呼ばれる社会は、先端技術を取り入れることで、すべての人の便利と豊かな暮らしを実現しようとするもの《持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せ(well-being)を実現しようとするもの》です。コロナ禍と先端技術の発展とが相まって、一人一台のタブレット端末が急速に導入され、教育環境が大きく変化しました。また、社会全体の価値観や環境も大きく変わろうとしており、教育現場においてはそれに対応・適応するべく、たくましく生き抜く力の育成とその社会の担い手となる人材育成求められています。

新たな社会を牽引する求められる人材としては「技術革新や価値観の源となる発見や想像をする人材」「技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを想像する人材」「様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材」等が掲げられています。そして、それらの人材を育成するために必要な力は、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心、探求力」等を育成していくよう提言されています。

しかしながら、AI等の普及によって情報があちこちから溢れかえり、情報過多の状態により正確な判断をすることが困難な社会情勢の中、子どもたちがたくましく生き抜いていくための力の育成はたやすいものではありません。子どもたちが「自ら課題解決をしたいと思う」「解決のための方法を選び、自ら探求する」「多くの情報の中から正確に判断する」ことを繰り返す中で、先述の「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心、探求力」「科学的に思考・吟味活用する力」が育成されるのであらうと考えます。

そこで本校の児童の実態からも、今年度の学校教育目標を上記のように掲げ、育成をめざす資質・能力を「課題解決に向けて主体的、批判的、多面的、総合的に深く考える力」と設定することとしました。

めざす子ども像

あ	あいさつをする子	【自らあいさつができる子】
か	かんがえる子	【あらゆる角度から、総合的に深く考える子】
し	じぶんから行動する子	【課題解決に向けて主体的に活動する子】
や	やさしい子	【人も自然も大切にできる子】